

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目3-20 電話 (011) 871-5005		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】 (平成20年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年11月26日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての 4階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円 (生活保護:35,000円)	その他の経費(月額)	光熱水費:22,000円 暖房費:6,000円(11-3月)
敷金	(有)(100,000円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	9名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科内科沢口医院・勤医協札幌歯科診療所・工藤歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム生きがいは、バス停から徒歩で1分、JR平和駅から6分と交通に便利 なところにある。近くには、小学校、コンビニエンスストア、本屋、喫茶店などがあ り、生活環境に恵まれた住宅街に位置しており、利用者は日常的に外出を楽しんでい る。建物は当医療法人設置の老人保健施設の4階にある。階下にあるディサービスの 開始前に、広い廊下での散歩はリハビリや気分転換の機会にもなっている。看護師の 管理者は、毎日往診される協力医と連携し利用者の健康に留意し、利用者も主治医の 訪問を心待ちにしている。運営者、管理者、職員が一体となった、明るい雰囲気 のホームづくりがなされている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回で指摘のあったホームの表札、理念の文字、金銭管理は、玄関に木製の手作 り表札が掲げてあり、「理念」の文字は見やすく、金銭管理では毎月、書面での 確認印があるなど、いずれも改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者及び職員全員で取り組んでいる。まとめた評価内容をミーテ ィングで話し合い管理者が最終的に作り上げた。職員は評価表に記入し話し合う過 程で、普段のケアを意識する契機にもなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は参加者の調整で、3ヶ月ごとに実施している。会議での意見や家 族の要望などは、ミーティングで報告しサービスにつなげている。今回の自己評 価、また、外部評価の結果も次回の会議に報告する予定である。管理者は、市や 区の担当者と気軽に相談できる関係を築いており、運営推進会議の内容を報告す るなど、担当者との話し合いを積極的にすすめ、利用者のサービス向上に努めて いる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「四季便り」を定期的に発行している。管理者は常に家族と話し合い、本人の健 康、暮らしについて報告し、苦情や意見を気兼ねなく話せるように努めている。 文化祭や焼肉パーティなどには気軽に参加できるような工夫もされ、これらの機 会に要望を聞き、また、家族間で交流ができる場づくりにもなっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの小学校とは、相互の交流がある。文化祭にはホームを開放し、利用者が職 員と一緒に作った手作りをプレゼントし、地域住民と利用者とのコミュニケー ションの場になっている。多彩な催しのボランティアを受け入れ、地域住民の認 知症などの相談、家族ボランティアの見学、研修の受け入れなど、盛んに取り組 まれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい暮らしを支え、人との輪を大切にする独自の理念はつくられているが、地域住民との関係性は明記されていない。	○	地域住民との交流が日常的に行なわれているので、理念の中にも地域密着性の内容を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの入り口に掲示してある。管理者と職員はカンファレンスや勉強会で理念について話し合い、深めるように努めている。また、日々の申し送り時に、普段のケアを振り返り理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、夏祭りなどに参加している。近くに小学校があり、運動会や行事に参加し、敬老会には小学生の訪問があるなど、相互の交流がなされている。多彩なボランティアの受け入れもあり、マジック、ハーモニカ、民謡、キーボードなど、地元との交流も盛んに行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全員に渡し、計画作成者、リーダーが中心になってまとめた。その内容をミーティングで話し合い管理者が最終的に作り上げた。職員は評価表に記入し、話し合う過程で、普段のケアを意識する契機にもなっている。前回の外部評価で指摘された点は、ほぼ改善され、現在、手作りでのホーム看板を検討中である		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は参加者の調整で、3ヶ月ごとに実施している。ホームから議題を提供し、そこでの意見や家族の要望などは、ミーティングで報告しサービスにつなげている。今回の自己評価、また、外部評価の結果も次回の会議に報告する予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市や区の担当者と気軽に相談できる関係を築いている。電話での報告や必要に応じて訪問するなど、担当者との話し合いを積極的にすすめている。区の担当者とは、生活保護の相談、オムツ費用など、毎月訪問して利用者のサービスに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホーム便り」を定期的に発行し家族に送っている。管理者は家族の訪問時に、本人の状態や職員の異動についても報告しており、職員にも、連絡をする時には必ず暮らしについても言い添えるように指導されている。金銭管理については毎月報告し、確認印を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置してある。家族等の訪問時には、意見や相談が出来るように積極的な声かけで対応している。文化祭や焼肉パーティでは気軽に参加できる配慮がなされており、これらの機会に要望を聞き、家族間の交流も得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の指導と関りから、職員の異動は少ない。職員の交代について、家族の訪問時に説明をしているが、「四季便り」にも載せていく予定である。行事や誕生会は2ユニット合同で行い、相互に顔馴染みになっている。職員の交代で状況に応じては、本人にも説明しダメージに配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時には、必要なマニュアルを渡し、1ヶ月の見習い期間を設けている。法人主催の研修や管理者の指導で研修を行なっている。外部研修では、(市)主催の認知症対応の実践研修に段階的に参加させており、業務に必要な研修費用は事業者が負担をしている。勉強会やミーティングで研修の報告を行ない、ケアへの向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市や区のグループホーム連絡協議会に参加し情報交換や交流を積極的に行っている。近隣の同業者が開催している「認知症教室」に加わり、住民の相談に乗り、参加者のグループワークを実践するなど、認知症高齢者への理解と啓発に取り組まれている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及び家族と面談し、納得してからの入居を大切にしている。数ヶ所のホームを見学し決めた例もあった。入院中の場合は管理者が訪問し、個人の事情に合わせた対応がなされている。自宅に帰りたいという訴えには、体験入居をすすめ、徐々に環境に慣れてもらうような工夫もなされている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者間で意見の相違がある場合には職員が介入し、一人ひとりの個性を尊重し円滑に自己表現が出来るように支えている。掃除や料理、ものづくりなど、利用者に学び、職員は一人ひとりのペースに合わせ、笑顔で対応し共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシート、記録、申し送りなどの情報を参考にして、利用者の意向を把握している。また、食事やおやつ時間を共に過ごし、得意な面、嗜好、好みの寝具、衣類、入浴、買物など、本人から聞きだすように関わり、その意向を計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、本人と家族の意向を把握し、カンファレンスで意見交換をして、担当職員と介護支援専門員が計画を完成させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直し期間は3ヶ月に設定されている。利用者に変化があった場合は家族に連絡・相談のうえ、介護支援専門員および担当職員で意見交換をし、随時、介護計画の見直し作成がなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当法人にスペースの広い老人保健施設が併設されており、利用者は冬場の屋内散歩や行事などに活用出来ている。買い物や外出希望などの要望には可能な限り対応し、外部からの認知症相談にも随時応じている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームの設置主体は医療法人であるが、利用者の希望するかかりつけ医の受診を優先させ、かかりつけ医との連携が密になされている。理事長である医師は、利用者全員の健康管理のために、毎日グループホームの往診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応するための「マニュアル」は作成されている。方針については契約時に説明し、署名・捺印を受けており、現在、具体化するための方針が検討されている。	○	管理者の指導などで職員は終末期の介護を理解しており、管理者は「看取りは可能」との覚悟を示されている。今後は家族等との具体的な検討をし、終末期介護への取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への職員の言葉掛けや誘導は、丁寧で自然な姿勢であり、誇りやプライバシーを損ねる様子は無い。記録類は個人ファイルでまとめられており、情報管理は厳重になされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間の入浴対応は難しいが、その他の日常生活支援は一人ひとりのペースに合わせて希望にそって行われている。飲酒も個別対応されていて、利用者の言動は明るく伸び伸びした様子である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは、本人に合わせて変更されたりしている。調理から後片付けまでの一連の作業は、利用者と職員の共同作業になっており、食事は同じ食卓で会話を楽しみながら摂取されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一人勤務の時間帯の入浴支援は難しいが、可能な限り本人の希望に合わせて支援している。利用者の男女比は5割だが、同性介助で対応されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力を大切に、外出の機会を多く作り、お金を使う事も個別の事情ごとに対応されている。書道、工作などの得意な楽しみごとや、晩酌などの気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会を多く設けるようにされている。近隣の喫茶店・本屋・コンビニエンスストアなどへの出入りは日常的に行われており、顔なじみの店側の協力が得られ、地域住民との交流がある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの出入り口は自動的に鍵が掛かるように設定されているが、利用者は自由に開錠し出入りに制限は無い。併設の老人保健施設など、館内全体が利用者を把握しており、館内見守りの体制がとられている		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害時のマニュアルを作成し、夜間想定を含めて利用者参加の避難訓練を実施している。今後は、町内会長を務めている近くのグループホームの運営者と相談し、町内とそのグループホームとの協力体制が実行されるように働きかけていく予定である。	○	管理者は避難経路・避難場所を含め、協力体制の拡充の必要性を確信しているので、早期の働きかけと実現に期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人全体の管理栄養士が献立を作っている。時々、その食材を使って職員が利用者の状態に合わせたメニュー変更を行っているが、栄養バランスと水分摂取量は確保され、記録管理もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るくゆったりとした造りになっており、利用者は居間に集まりお喋りをして過ごしている。鉢植えや壁飾りなどで、生活感や季節感を感じさせ、居心地の良い工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の床は、木製のフローリングで温もりを感じさせる。利用者の馴染みの物が活かされており、スペースも広く、安心と安全に生活出来るゆとりを感じさせる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。